



100th
Anniversary

2017年度第2四半期 決算説明資料

2017年11月7日

目次

- I 2017年度第2四半期決算概要
- II 連結財務状況および
2017年度業績見通し
- III 持株会社体制について

I 2017年度第2四半期決算概要

(単位: 億円)

	16年度 2Q実績	17年度2Q		対前年 同期差額
		期初予想	実績	
受注高	1,722		2,475	+ 753
売上高	3,222	3,500	3,415	+ 193
営業利益 (営業利益率)	△ 23 -(0.7%)	40 (1.1%)	△ 91 -(2.7%)	△ 68
経常利益 (経常利益率)	3 (0.1%)	80 (2.3%)	△ 48 -(1.4%)	△ 51
親会社株主に帰属する 当期純利益	39	30	△ 59	△ 98

■ 受注高はMODECの大型係留設備の受注により増加した。

■ 売上高はエンジニアリング部門における大型プロジェクトの進捗により増収となった。

■ 営業利益、経常利益、当期純利益はプラント工事の追加費用発生に伴い減益となった。

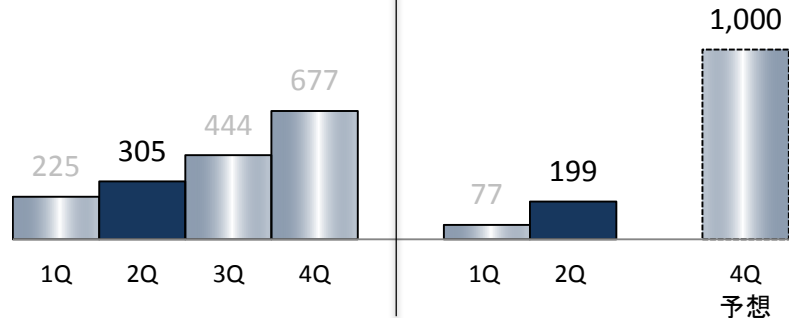
USD前提レート		¥105	
USD期末レート	¥101.12		¥112.73
USD平均レート	¥103.75		¥111.82

(単位：億円)

16年度

17年度

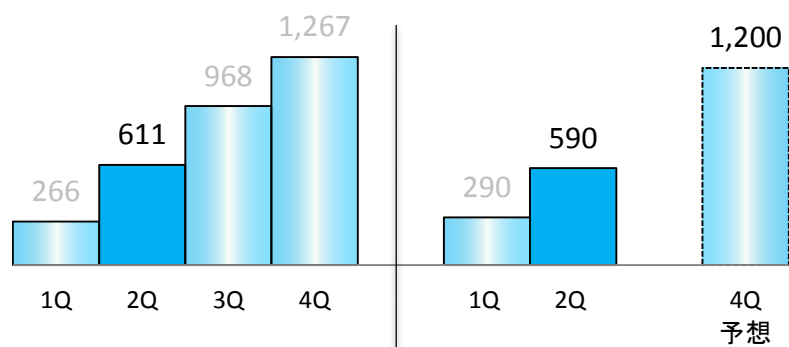
受注高



受注高：対前年同期比 $\Delta 106$ 億円

海運市況は改善傾向にあり、新造船の商談は増加するも船価水準の回復には至らず、前年同期比では減少。
新造船の受注機会は拡大していることから、通期予想は達成の見込み。

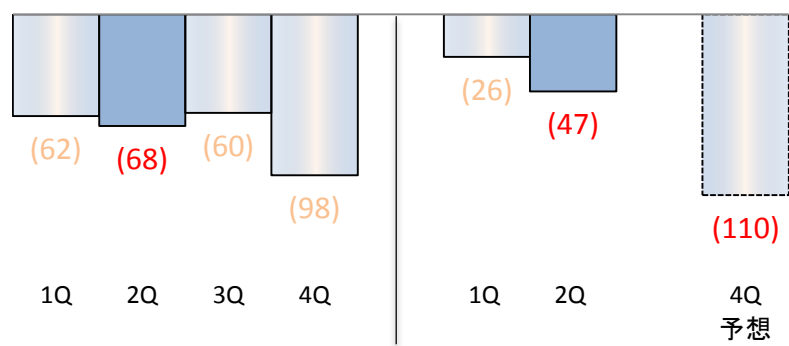
売上高



売上高：対前年同期比 $\Delta 21$ 億円

手持工事は順調に進捗したが、前年同期比では若干の減収。

営業利益



営業利益：対前年同期比 $+21$ 億円

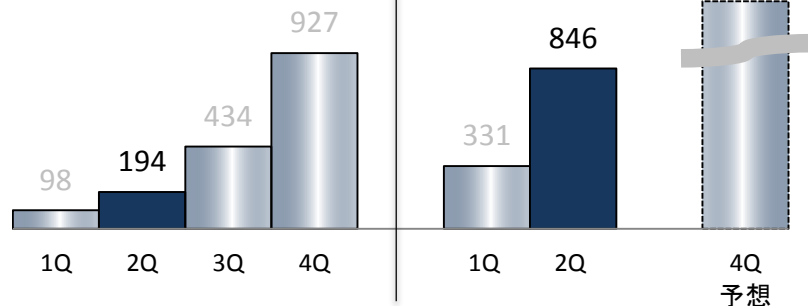
市況低迷時に受注した船舶の完成が続き、前年同期と同様に営業損失となった。

(単位：億円)

16年度

17年度

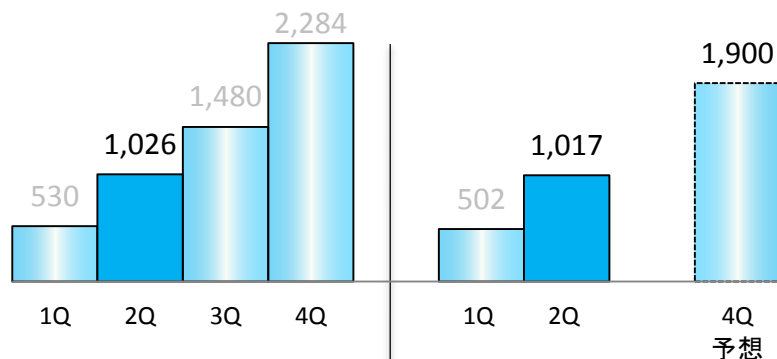
受注高



受注高：対前年同期比 + 652億円

アフリカ地域初のFLNG用大型係留設備建造プロジェクトを受注。下期にはペトロbras社ブラジル沖合向けFPSOを受注しており、通期予想は達成の見込み。

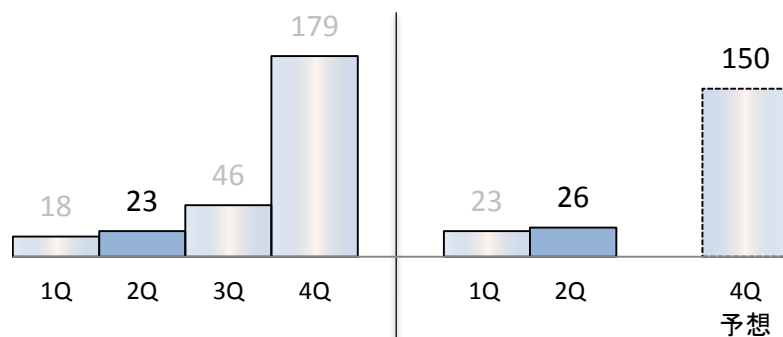
売上高



売上高：対前年同期比 △9億円

FPSO建造工事が順調に進捗し、前年同期並みの水準となった。

営業利益

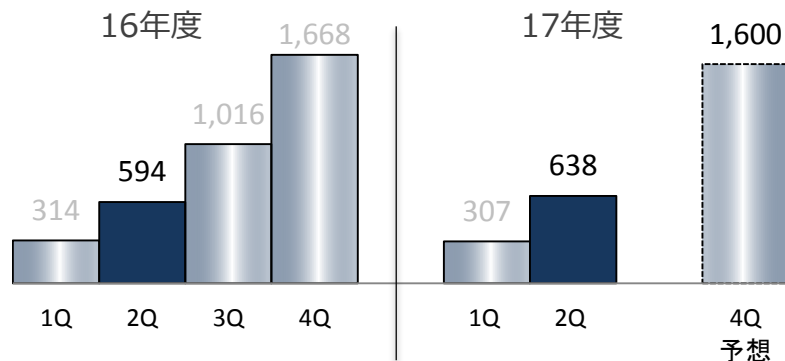


営業利益：対前年同期比 + 3億円

ガーナ向けFPSOにかかる未実現利益が下期にずれ込んだが、オペレーションの採算改善等により、前年同期を上回る利益を確保。

(単位：億円)

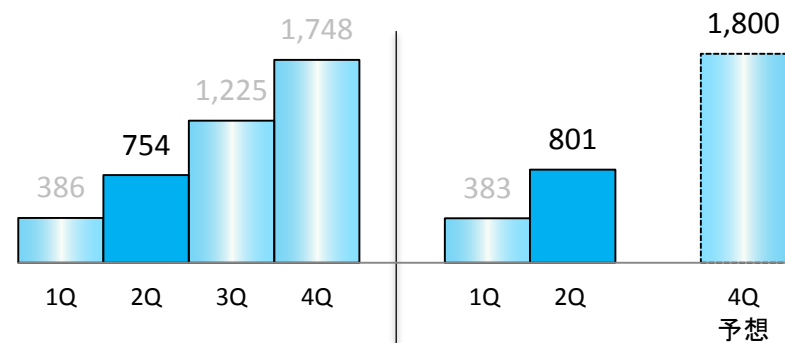
受注高



受注高：対前年同期比 + 44億円

原油価格低迷により、産業機械が低調に推移したが、遅れていたコンテナクレーン案件が動き出したことから、前年同期比では増加。船用ディーゼル機関が堅調に推移していることから通期予想は達成の見込み。

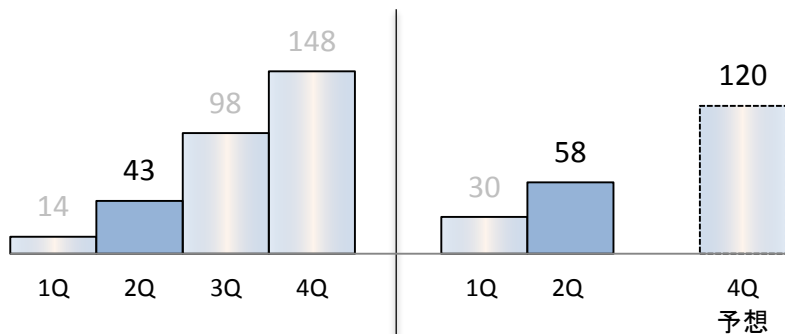
売上高



売上高：対前年同期比 + 47億円

受注が低迷している産業機械で減収となったものの、橋梁やアフターサービス事業が堅調に推移し、前年同期比では増収。

営業利益

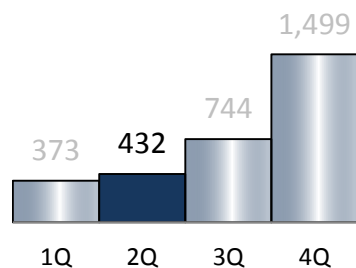


営業利益：対前年同期比 + 15億円

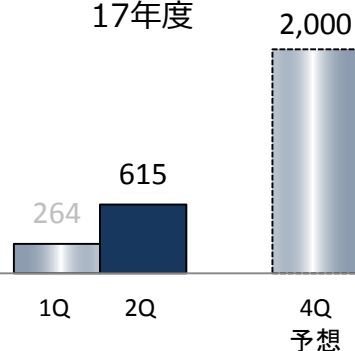
低調な産業機械は減益となったが、橋梁やアフターサービスが好調に推移したことに加え、前期にコンテナクレーンで発生した為替の影響による減益要因が無くなったことにより、前年同期比で増益となった。

(単位：億円)

16年度



17年度



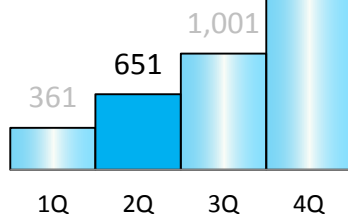
受注高：対前年同期比 + 183 億円

バイオマス発電所のEPC工事等の受注により、前年同期比で増加。
下期には化学プラントの設計調達工事等の大型案件が控えており、通期予想の達成に向けて注力していく。

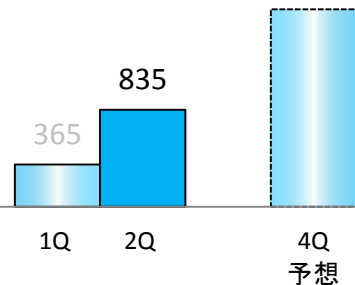
受注高

売上高

16年度



17年度

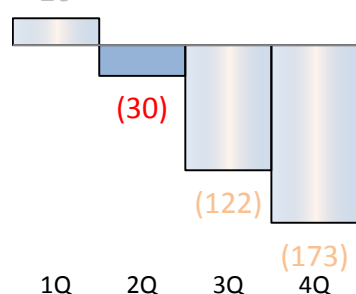


売上高：対前年同期比 + 184 億円

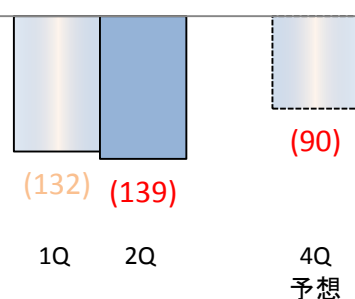
手持ちの大型プロジェクトの進捗により、前年同期比で増収。

営業利益

16年度



17年度



営業利益：対前年同期比 △ 109 億円

建設中のプラント工事において、追加費用が発生し、前年同期比で大幅に悪化した。

Ⅱ 連結財務状況および 2017年度業績見通し

連結貸借対照表の状況

(単位：億円)

	16年度 実績	17年度 2Q	増減
現預金	1,198	939	△ 259
売掛金	2,617	2,623	6
その他流動資産	1,559	1,781	222
固定資産	5,594	5,553	△ 41
資産合計	10,967	10,896	△ 71
買掛金	1,958	1,897	△ 61
前受金	729	568	△ 161
有利子負債	2,652	2,985	333
その他	1,952	1,901	△ 51
負債合計	7,291	7,351	60
純資産	3,676	3,545	△ 131
負債純資産合計	10,967	10,896	△ 71

(単位：億円)

	14年度 実績	15年度 実績	16年度 実績	17年度 2Q	17年度 予想
営業CF	152	298	△78	△318	△110
投資CF	△324	△346	△288	△212	140
フリーCF	△172	△48	△366	△530	30
財務CF	△44	482	194	303	△110

有利子負債	1,883	2,399	2,652	2,985	2,580
DEレシオ	0.8	1.0	1.1	1.2	1.0

(単位：億円)

	17年度		増減
	期初予想	最新予想	
受注高	8,000～ 10,000	8,000～ 10,000	0
売上高	7,000	7,000	0
営業利益	160	100	△ 60
経常利益 (経常利益率)	220 (3.1%)	170 (2.4%)	△ 50
親会社株主に帰属する当期 純利益	70	30	△ 40
一株当たり利益 (円)	8.66	37.12	*
一株当たり配当 (円)	3	30	*
USD前提レート	105	105	

* 当社は2017年10月1日を効力発生日として10株を1株に株式併合しており、株式併合を考慮しない場合の最新予想数値は以下の通り

一株当たり利益 (円) : 3.71

一株当たり配当 (円) : 3.00

セグメント別内訳

(単位：億円)

	受注高			売上高			営業利益		
	17年度 2Q 実績	17年度 下期 予想	17年度 予想 (期初予想)	17年度 2Q 実績	17年度 下期 予想	17年度 予想 (期初予想)	17年度 2Q 実績	17年度 下期 予想	17年度 予想 (期初予想)
船舶	199	801	1,000 (1,000)	590	610	1,200 (1,200)	△47	△63	△110 (△120)
海洋 開発	846	2,154~ 4,154	3,000~ 5,000	1,017	883	1,900 (1,900)	26	124	150 (150)
機械	638	962	1,600 (1,600)	801	999	1,800 (1,800)	58	62	120 (100)
エンジニア リング	615	1,385	2,000 (2,000)	835	865	1,700 (1,700)	△139	49	△90 (10)
その他	177	223	400 (400)	171	229	400 (400)	12	18	30 (20)
合計	2,475	5,525~ 7,525	8,000~ 10,000	3,415	3,585	7,000 (7,000)	△91	191	100 (160)

損失発生要因となった工事の影響

<海洋支援船の状況>

海洋支援船建造工事において、設計変更や後戻り作業が発生したことによる納期変更に伴い追加費用が発生。



4隻のうち3隻の引き渡しを完了済み。残りの1隻は18年2月に引き渡しを予定しており、17年度下期に対する影響は軽微なものとなっている。

<プラント工事の状況>

北米で建設中のプラント工事において、16年度までに現地工事の生産性低下に伴う工程遅延や労働力の追加投入等により多額の損失を計上。更に17年1Qに設備の据え付け精度等に関する追加費用が発生。



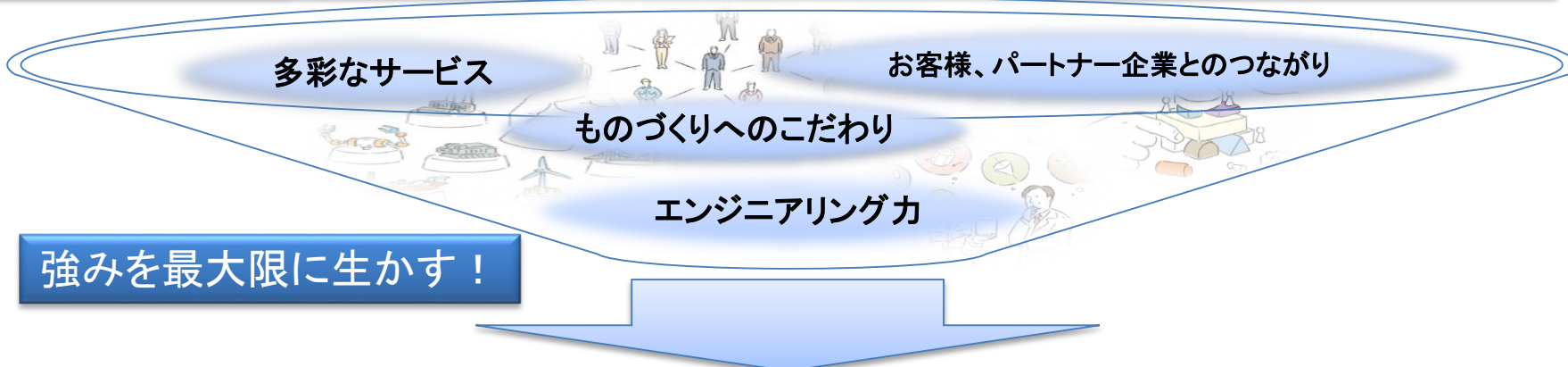
ハリケーンの影響により2週間程度の遅れが生じたが、当初予定の工事は完了。今後、ハリケーンの影響による補修工事を17年度3Qまでに完了する予定であり、17年度下期に対する影響は限定的なものとなっている。

Ⅲ 持株会社体制について

1) 移行の目的

ありたい姿

社会に価値をつくりだすエンジニアリングチームへ



強みを最大限に生かす！

持株会社体制へ移行

経営と執行の分離

持株会社

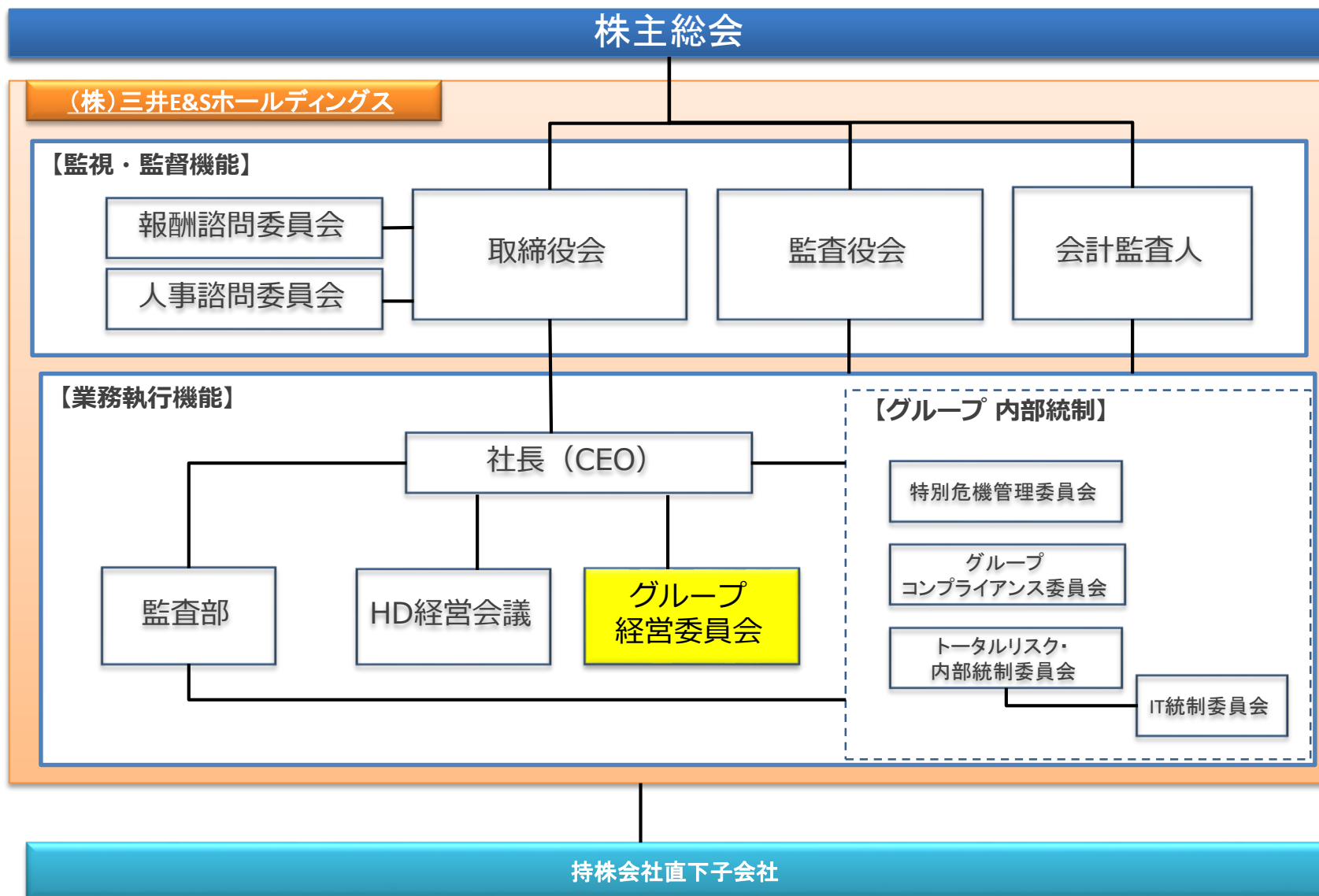
グループ全体の戦略を実行

事業会社

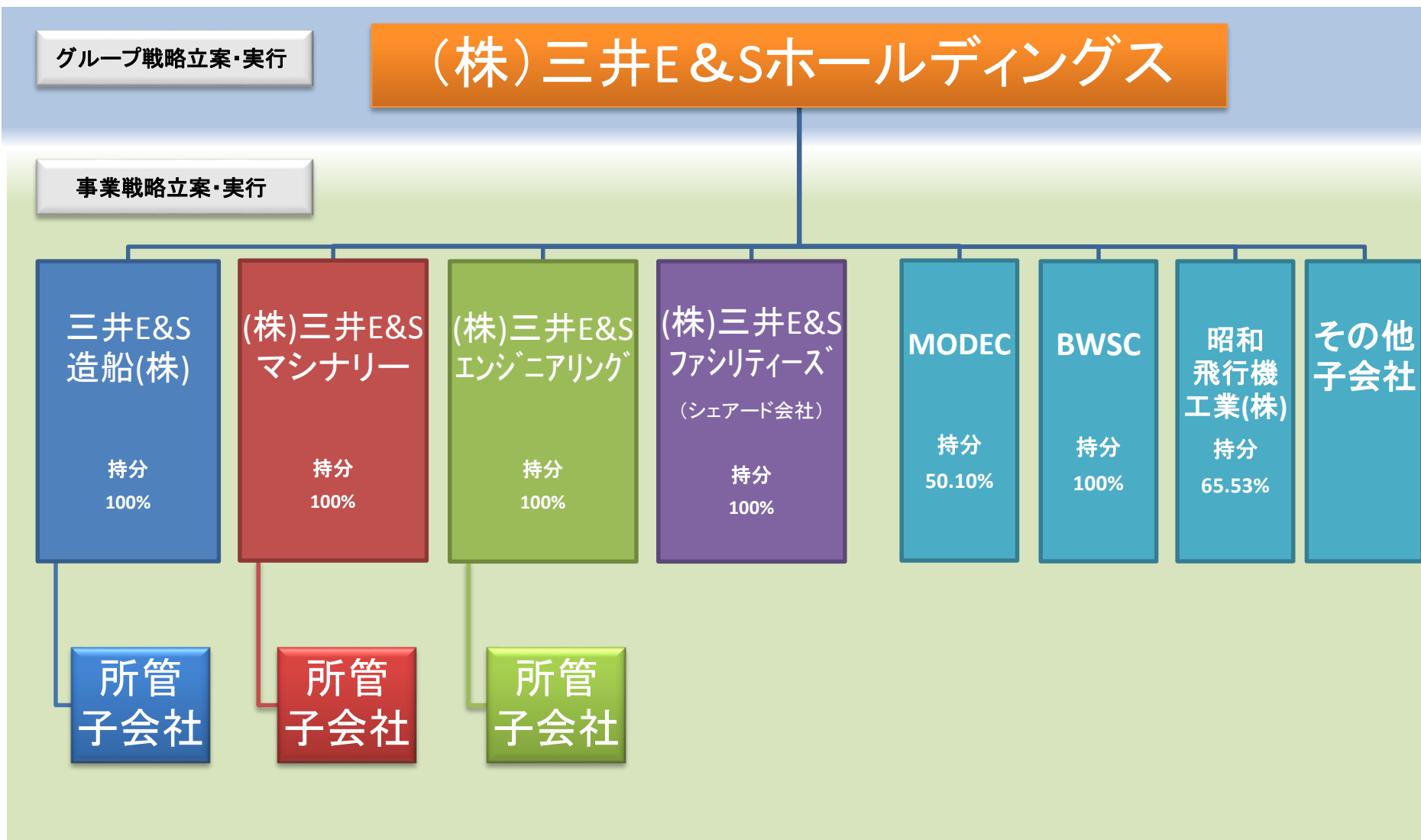
事業の競争力を強化

事業規模の拡大と企業価値の持続的向上

2) 持株会社のガバナンス体制



3) 三井E&Sグループ組織体制



4) 各事業会社の方向性

三井E&S造船（株）

社長

環境安全管理室

内部統制監査室

事業戦略室

企画管理本部

営業本部

設計本部

製造本部

玉野艦船工場

千葉工場

由良修繕部

■ 事業展開の推進を加速

- ・ 戦略機能の強化
(協業展開、千葉工場変革を推進)
- ・ 設計調達機能の強化
- ・ LSS事業の強化 (修理艦事業の強化)
- ・ エンジニアリング推進体制の整備
- ・ 事業開発機能の見直し・強化
(新規ビジネス発掘)

4) 各事業会社の方向性

(株) 三井E&Sマシナリー

社長

■ 製品ポートフォリオの維持、強化

- ・ 舶用ディーゼル機関は
低燃費と環境規制対応を推進
- ・ 運搬機工場をマザー工場化
(品質の向上と海外生産拠点の構築)
- ・ クレーンの開発と市場投入
(遠隔自動化、高効率化)
- ・ アフターサービス事業の拡大
(グローバルネットワーク体制の強化)



4) 各事業会社の方向性

(株) 三井E&Sエンジニアリング

社長

■ 事業の選択と集中

- 環境エネルギー分野の拡大
(風力発電やバイオマス発電分野におけるEPCとO&M事業の規模拡大)
- 社会・産業インフラ分野の強化
(石炭火力発電所土建工事分野での収益牽引)
- 化学プラント分野の見直し
(設計、調達業務へ集中)

内部統制監査室

環境安全室

品質保証部

調達部

経営企画本部

環境・エネルギー事業部

インフラ事業部

プラント事業部

5) 数値目標

	2017年度中期経営計画 2019年度末 目標	2025Vision 2025年度末 目標
売上高	9,200億円	11,000億円
経常利益	370億円	—
経常利益率	4%	6%
ROIC	6.5%	—
有利子負債残高	2,700億円以下	—



MITSUMI E&S

M on the Earth

下線が表しているものは、地球の地平線であり、水平線。その上に存在する「M」の文字。実はその間に2つの向き合う矢印が隠されており、一つのグループの中で、多彩な技術や人材が結集し、地球に新しい価値を作り出していく意思を表現した。

補足資料

(単位：億円)

主要子会社

子会社	16年度2Q実績		16年度実績		17年度2Q実績		17年度予想	
	受注高	売上高	受注高	売上高	受注高	売上高	受注高	売上高
MODEC	194	1,026	927	2,300	846	1,017	—	1,900
BWSC	132	187	501	486	147	225	—	500
昭和飛行機工業	—	89	—	234	—	97	—	245

MODEC、昭和飛行機工業の数値は各社開示の数値

(単位：億円)

設備投資等

連結	16年度2Q実績	16年度実績	17年度2Q実績	17年度予想
設備投資	79	202	119	160
減価償却費	86	186	86	—
研究開発費	16	46	17	57

従業員数

連結	16年度2Q実績	16年度実績	17年度2Q実績
従業員数	12,866人	13,171人	13,328人

新造船

- 主要製品 = 商船、艦艇、官公庁船、作業船、漁船
 主要顧客 = 国内外船主、海運会社、防衛省、海上保安庁



海洋構造物

- 主要製品 = FPSO／FSO（浮体式海洋石油・ガス生産貯蔵積出設備／貯蔵積出設備）
 主要顧客 = 石油開発会社



修繕船・その他

- 主要製品 = 船舶修理・改造、船舶用製品、水中機器
 主要顧客 = 海運会社、防衛省、海上保安庁、公共機関



2017年度2Q 単体新造船受注内訳

（単位：隻）

船種	受注高	引渡	受注残高
一般商船 （省エネ型 neoシリーズ）	2	4	21
艦船・官公庁船		0	

ディーゼルエンジン

- 主要製品 = 舶用ディーゼル機関等
主要顧客 = 造船所等



産業機械

- 主要製品 = 圧縮機、送風機、ガスタービン、蒸気タービン、プロセス機器、誘導加熱装置、レーダー検査装置、マニピュレーター等
主要顧客 = 石油精製・石油化学・製鉄・製紙・発電会社、自動車メーカー等

テクノサービス

- 主要製品 = ディーゼルエンジン、産業機械、クレーンのサービスパーツ、メンテナンス等
主要顧客 = 海運業、石油業界、製鉄業界、海外・国内コンテナターミナルオペレーター会社等

コンテナクレーン

- 主要製品 = ポーターナ（岸壁クレーン）、トランステーナ（港湾クレーン）、産業クレーン、CTMS（Container Terminal Management System）等
主要顧客 = 海外・国内コンテナターミナルオペレーター会社、製鉄会社等



その他

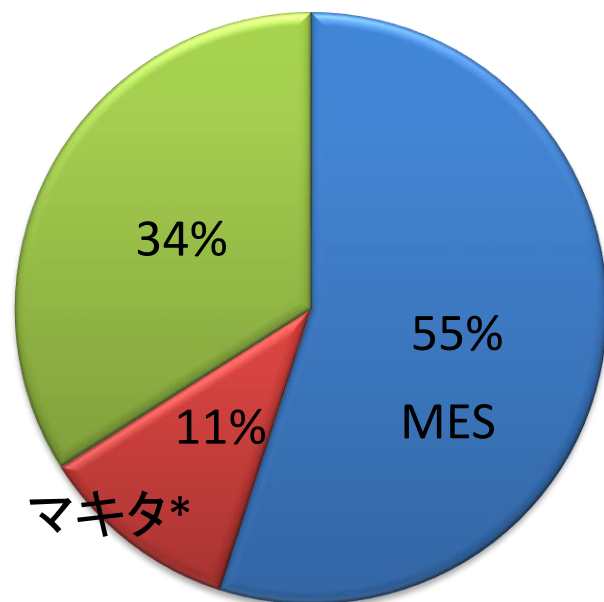
- 主要製品 = 陸用/舶用非常用発電装置、鋳造品、鍛造品等
主要顧客 = 建機メーカー、鉄道・通信インフラ関連業界、機械メーカー等



	16年度2Q累計		17年度2Q累計	
	基数	万馬力	基数	万馬力
受注高	37	70	25	47
売上高	87 *(3)	159 *(10)	71 *(0)	179 *(0)
受注残高	109 *(2)	347 *(4)	93 *(1)	282 *(2)
生産実績	99	186	77	191

* () 内数値は、ガス焼きエンジン (GI、LGI) の内数

2016年1月～12月
船用ディーゼル機関
国内シェア



Source: KPデータ (2ストローク機関)

* (株)マキタは当社サブライセンシー

化学プラント

- 主要製品 = プラスチック、合成繊維、合成ゴム等石油・ガス化学プラントのEPC
 主要顧客 = 国内外の大手化学企業や国営石油会社

インフラ発電

- 主要製品 = 石炭火力発電所の土建工事、バイオマス発電等再生可能エネルギープラント
 および汚泥再生処理等の環境プラントのEPCとO&M
 主要顧客 = 総合商社、国内新電力会社、地方自治体

BWSC（子会社インフラ発電）

- 主要製品 = ディーゼル発電プラントおよびバイオマス発電プラントのEPCとO&M
 主要顧客 = 大手電力会社や独立系発電事業者（Independent Power Producer）



エンジニアリング受注・売上内訳（単位：億円）

	16年度2Q実績		17年度2Q実績	
	受注高	売上高	受注高	売上高
化学プラント	128	313	340	354
インフラ発電	304	338	275	481
合計	432	651	615	835

100th Anniversary

2018年4月1日より
三井E&Sグループとして
新たな一歩を踏み出します